

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3070102722		
法人名	株式会社リバソ		
事業所名(ユニット名)	グループホーム なぎのやど U-2		
所在地	和歌山市下三毛870-2		
自己評価作成日	平成29年10月20日	評価結果市町村受理日	平成30年1月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2
訪問調査日	平成29年11月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

なぎのやどでは、ご利用者様またスタッフを含め家族となり、地域の方々との交流を行いその人らしい普通の暮らしを愛する地域での日常生活をご支援させていただきます。
また、ご本人様、ご家族様のご希望があり医師の指導のもと可能な限り看取りまで支援させていただきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は勝宝山の高台に位置し、市街地が一望できるのどかな地域にある。事業所は開設当初から地域との交流に努めており、入居者・職員の地域活動への参加に加え、事業所の運営推進会議や防災訓練には住民の参加協力を得ているなど、地域との相互関係を築いている。また、管理者・職員は、事業所理念に基づいたサービスを実践しており、入居者は職員との家庭的な日常の中で、その人らしく生き活きと暮らしている。終末期の支援については、事業所での看取りを希望する入居者・家族が多く、職員も、共に長く過ごした入居者を最期まで支援したいという思いが強い。事業所は医療機関との連携を密に図りながら看取り支援に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている ○ 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その人らしい暮らしという部分で内容が共有できていない所があったため、話し合いを行い共有できるように努めています。	管理者・職員は、理念をサービスの実践につなげられているか、常に掘り下げて話し合っており、入居者一人ひとりのその人らしい暮らしの支援に努めている。朝礼での唱和や、リビング内の掲示も、理念の共有と意識付けの一つと捉えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の小学生が交流に来てくれている。また小学校の運動会にも招待され出向いている。運営推進会議には地域の方が来て下さり利用者様へ手作りのプレゼントなどもって来訪してくれる地域の方もいらっしゃいます。	管理者・職員は開設当初より地域との交流に努めており、日々の挨拶はもちろん、地区活動にも積極的に参加したり、近隣農家や小学校とも親しく行き来している。事業所は、今後さらに地域とのつながりを広めていきたいと考えている。	既に地域住民とのつながりは深まりつつあるが、例えば地域の人々が利用者や職員とのお茶や、介護や認知症の質問などにも立寄るような、今以上に気軽にホームを訪ねられる地域交流を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の自治会と事業所が連絡を取り合い運営推進会議を通して清掃活動や催し物への参加等地域の人々に理解を得て戴けるように努めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度運営推進会議を自施設で開催しホームの現状や事故・苦情件数・内容報告している。また防災訓練の実施、地域活動への参加、感染対策安全対策等の課題を含め委員に意見を求めサービスの向上に努めている	入居者や家族、地域住民、系列のグループホーム職員や地域包括支援センター職員の参加を得て、事業所単独で開催しており、事業所からの報告に対し、出席者から評価や助言を得てサービスの向上に活かしている。協力医や民生委員にも議事内容を報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当の方には運営基準に関することをお聞きしたり、認定更新時に事業所の相談、行政で不明な事をお聞きしています。	市の担当課には必要に応じて相談や問い合わせをしている。運営推進会議では、地域包括支援センター職員からケアに関する情報を得て協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は施錠せずに外に出れるようにしている。又研修も参加し自施設での月例会議の議題にも取り上げている。	職員は毎月の危機管理委員会や外部研修などで身体拘束の内容と弊害を正しく理解し、身体拘束しないケアに取り組んでいる。日中、玄関の施錠はせず、職員間の声掛けや、見守りの徹底により安全確保をしつつ、入居者の意向を汲んだ抑圧感のない暮らしの支援に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し、事業所内でも報告し、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し、事業所内でも報告し、防止に努めている。防止に努めている。必要のある利用者には活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際に説明をし、理解を得られるようにしている。また年に一度家族会を開催し、意見を交換している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に一度家族会を開催し、意見を交換している。また玄関先に意見箱を設置し、運営に反映させている。	年1回の家族会議は、多数の家族に参加してもらえるよう、夏祭りの日に合わせて開催している。普段、家族が来訪した際も話しやすい雰囲気心がけている。リビングには、相談・苦情窓口の掲示や意見箱の設置があり、入居者・家族が意見を言い表せる機会を設けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者・代表者とスタッフが面談を行い意見や希望を伺う機会を設けている。それにより環境が改善されています。	代表者や管理者は常に職員と意思疎通を図り、職員の声に耳を傾けている。危機管理に関する取組みからレクリエーションの企画に至るまで月例会議などで討議し、職員の意見を運営に反映させている。ドウ祭りやハロウィンパーティの企画もその一例である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパスOJT評価シートを作成しスタッフはそれに取り組んでいる。それに対し評価を行いキャリアアップをすることにより給与水準ややりがい等、スタッフ個人の向上心につながるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修には積極的に参加し、自社ではキャリアパスojt個別計画評価シートを作成し、段階に応じてスタッフ個人のスキルアップに努めている。代表、管理者が全て把握している。また定期的にスタッフ間会議を開きスキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	一般社団法人和歌山県認知症支援の会に参加し他のホームの見学・会主催の研修等に参加している。参加する職員は良い刺激となり、良いアイデアが生まれサービスの向上に役立っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の際、希望や要望を聞き入れ、極力反映するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	こちらも入居の際に希望や要望を聞き入れ、極力反映するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族と話し合い必要な支援を考え実践している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の調理・洗濯・調理等手伝ってもらったり、職員が分からないことは教えてもらったりと関係は築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何かあれば家族の方に連絡をし、連絡を頂けるとい相互関係を築けている。家族の方が気楽に来れるような環境作りにも努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望があれば馴染みの場所に行くようにしている。また数年来の友人も気軽に面会に来て頂いている。	入居者や家族から話を伺って馴染みの人や場所との関係を把握し、出来るだけ関係が途切れないように努めている。買い物や整髪、通院などの外出以外にも、店舗から出張して来てもらう場合もある。友人知人の来訪も歓迎している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係を把握し、ダイニングでの座席を割り振る等孤立せず利用者が同士の関わり支え合えるような環境作りにも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した利用者や家族の方にもイベント参加の案内出しや、ボランティアをして頂く等、関係の継続に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや暮らしの希望を自分で話してくれる方はそれに添えるよう支援している。またそれが困難な方に関しては日頃良く観察をし様子や動き等から推し量り検討するようにしている。	毎月のケア会議では職員の日々の気づきや意見を出し合って、入居者の思いや意向の把握に努めている。意思疎通が困難な入居者の場合は、家族の要望も伺い、入居者の行動や表情から汲み取って、本人の視点に立って検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族のバックグラウンドを把握して職員がそれを共有し、これまでのサービス利用の経過等に反映するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人の介護記録用紙に「日の過ごし方」を記録、申し送りを行い共有している。特記事項があればノートに書きしるし共有を行っている。また月1回カンファレンスを行い以前と変わったこと等話し合い現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者・家族の意向を踏まえ、職員間のカンファレンス内容や家族来訪時に出された意見・要望をを基に介護計画を作成している。家族には計画作成を定期的に見てもらい同意を得ている。	毎月の入居者ごとケア会議では、管理者・職員が気づきやアイデアを出し合って意見交換し、介護計画の見直しにつなげている。介護計画は、入居者・家族の要望を踏まえ、現状に即して見直し作成しており、必要に応じて主治医や訪問看護師などの関係者にも意見を求めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の介護記録用紙に「日の過ごし方」を記録、申し送りを行い共有している。特記事項があればノートに書きしるし共有を行っている。また月1回カンファレンスを行い以前と変わったこと等話し合い現状の把握に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者が個人的に付き合いのある馴染みの場所(美容院、化粧品店・墓参り等)への付き添いや、家族の入院の際には、見舞いに付き添う等の支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者ひとり一人の様々な地域資源を把握しており、それを活かし生活できるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・家族の多くが希望するかかりつけ医に月2回往診を受けている。また、必要な場合は適切な医療機関で診察を受けられるように紹介してもらっている	かかりつけ医の選択は本人・家族の希望に添っているが、ほとんどの入居者は協力医をかかりつけ医としている。これまで通っていた医院への受診は家族と協力して支援しており、いずれが付き添う場合でも連絡を密にして情報の共有を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携している訪問看護師が週一回来られている。また、特変事項があれば連絡をし適切な受診や看護を受けられるように連携を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医師に、入院者の細かな状況説明を行っている。またかかりつけ医による利用者の情報書類を書いてもらい、入院先の医師に渡している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重要事項説明書で重度化した場合や終末期の看取りに関する指針について説明を十分しており、重度化した場合はかかりつけ医と家族、職員が話し合い方針を決めている。	入居者・家族には契約時に、重度化・終末期において事業所が出来る事を説明している。入居者・家族の希望により、事業所内で看取することも多い。実際に重度化した場合は、状況の変化に応じてその都度意向を確認し、医療機関と連携を図りながら支援に努めている。職員はその都度訪問看護師から実践的な指導を受けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署で開催している救命講習に参加し定期的にホームでも研修会を開催し、身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	各種災害に対する防災マニュアル(案)を策定しそれをもとにスタッフに周知徹底を行っている。またさまざまな災害を想定した避難訓練を地域の方や消防と共に定期的に行っている。	事業所では防災対策委員会を設置し、普段から防災意識を高めるよう努めている。年2回、入居者や地域住民も参加して、昼夜を想定した避難訓練を実施しており、職員は災害時の連絡網やマニュアルを熟知している。各ユニットごとに災害時の備蓄がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の個人個人の人格を尊重し、きちんと考慮した言葉かけや対応をしている。	入居者の人格を尊重した支援に努めており、入浴や排泄時の羞恥心にも配慮し、自尊心とプライバシーを損ねない対応を心掛けている。呼称は姓に「さん」付けとし、個人情報（パソコン・書類）も取り扱いや保管に注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何がしてほしいか表せる利用者には希望を聞き、実行している。表すことが困難な利用者に対し他は、簡単な質問をしたり表情を見たりして出来るだけ自己決定してもらえるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の決まりを優先せず、利用者の希望に添って外出の支援をしたり、自分の居室で過ごしてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が着たい物を選んでもらっている。職員と一緒に選び本人に最終決定してもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は得意な事や力量に応じて食事の準備やあとかた付、盛り付けなどを職員と行っている。またホーム敷地内のウッドデッキで食事をしたり、外食を楽しんでいる。	入居者は自分の出来る範囲ではあるが、職員と一緒に食事作りを楽しんでいる。また、事業所では、入居者の誕生日での希望メニューや職員手作りのパステルケーキで祝ったり、気候の良い時期には庭での食事、時々のお食、毎月1回開催の「なぎカフェ」など、食事に変化を持たせ、「食」への関心と楽しみを引き出す工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	長事は食材の内容が偏らないようにバランスを考慮したメニューを作っている。また食事や水分摂取量も記録している。その人に適量であるかによって調整している。なお定期的に体重を測り急な体重の増減に注意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問衛生士が週一回来てくれ、口腔チェック口腔清掃を行ってくれる。食後は職員が一人ひとりの口腔ケア、義歯の洗浄介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的なトイレの声掛けや誘導、介助を行い、排泄パターンを把握し排泄の失敗や、紙パンツの使用を減らすように支援している。	羞恥心や不安を軽減するために、声かけに配慮している。排泄を記録しパターンを把握するとともに、その時々の様子を見守ることで、日中はほとんどの入居者をトイレへ誘導している。排泄の自立に向け、入居者一人ひとりに合わせた支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事内容に野菜の多い献立を提供し適量な水分を摂取してもらうように働きかけている。便秘がちな利用者には腹部マッサージ・ベッド上での運動も取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日でも入浴は可能であるが、ほとんどの利用者多い。入浴順も偏らず、まんべんなく入浴できるようにしている。季節ごとにゆず湯や菖蒲湯を楽しんでもらっている。	毎日でも入浴可能であるが、ほとんどの入居者が隔日に午後入浴しており、毎回順番を入れ替えたり公平性に努めている。柚子湯、しょうぶ湯など季節を楽しむ工夫もされている。浴室は明るく清潔である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室で休みたい利用者には自由に休んでもらえるようにしている。体調の悪い利用者には安心して休んでもらえるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者の投薬内容と効果、副作用をファイリングして用法や用量について理解している。また、投薬後の利用者の状態の変化を注意ぶかく観察している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者それぞれの力に応じて掃除、料理、洗濯物干し等家事、プランターへの花植え、水やりなどしてもらっている。カラオケ・ゲーム等のレクリエーションや季節の行事(花見・夏祭りクリスマス会等)を行い楽しく暮らせる支援をしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な利用者の希望に応じて近くのスーパーに買い物やドライブに出かけている。また、年に1回観光旅行を企画しており、家族様、利用者さまと共に観光バスで出かけている。春にはアドベンチャーワールドに行ってきました。	出来るだけ外出の機会を多く持てるよう、近隣スーパーへの買い物やドライブなど入居者一人ひとりの希望に添った支援に努めている。少人数での外食や、地域の小学校や高校の催しに出かけたりもする。年1回、家族と一緒に日帰り旅行を催行し、普段行けないような場所への外出を楽しむこともある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本に意が希望すれば所持してもらい、好きな時に使うことができるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望すれば極力添えるようにしている。また、携帯電話を所持し自由に使用されている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掲示物等なくシンプルな空間にしている。トイレや浴室の表示が分かりやすく落ち着いた空間づくりを心掛けている。リビングには季節の花を飾っている。また共同室からの展望が良く、ホームに居ながら季節を感じることができる。	玄関を入ってすぐのリビングダイニングには、自宅のようにソファや食卓、テレビなどが配置され、落ち着いた雰囲気です。一人ひとりがくつろげるよう工夫されている。採光、温・湿度、通風、音量なども快適に保たれており、トイレや浴室も清潔感がある。事業所は勝宝山の高台にあり、広い窓からは市内が一望でき、開放的である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中にも利用者個人個人が気に入ってる場所があり、気の合う利用者同士が自由にコミュニケーションを取られている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は家具等を本人・家族が持ち込み、壁には家族の写真や手芸品をおいたりして居心地良く過ごせるように配慮している。	1枚1枚スタッフ手作りの表札がドアにかけられている。入居者は、思い思いに使い慣れた家具を置き、家族写真や思い出の品を飾り、その人らしく居心地よく暮らせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には表札を掲げている。その他トイレや風呂場等もわかりやすく表示している。広場や居室内の段差や足がひっきりやすいものは極力取り払い安全委も配慮している。		